

# 安全教育だより

◎知識を備える ◎安全行動 ◎地域・社会に貢献

2019年 3月15日  
生活指導委員会

## 第7号

### 私が伝えたい思い

荒浜中学校 東日本大震災追悼集会

3月12日(火)に、本校多目的ルームで、東日本大震災追悼集会が開かれました。今年度は、荒浜地区まちづくり協議会事務局長の、菊地敏夫さんをお招きし、講演をいただきました。菊地さんは講演の最後に、「皆さん自身が、震災の教訓を語り継ぐ、語り部になって欲しい。」と語りかけ、生徒も熱心に聴き入っていました。



パワーポイントを使用し説明する菊地さん

### ～ 震災の記憶から ～

#### 「どのように行動すればよいか」

私は、幼稚園の頃に東日本大震災を経験してとても怖い思いをしたことを今でも覚えています。今日見た写真はとても悲しい光景でした。でも、もしまた津波が来たら、どうすれば良いのか学べる時間でした。津波から逃げるときの、避難の「たすどひく」という新しいキーワードも覚えることができました。命を守るために、備えが重要だということ学びました。家族とも話し合いをして、避難場所などを決めておきたいと思います。

武 蔵

#### 「ボランティアの皆さんに感謝」

次はいつ自然災害が起きるのかわからないけれど、もし起きた場合はボランティア活動に進んで取り組むことが大事だと思いました。地元の人でもボランティア活動をしている人がいたので、自分も頑張らなくてはと思ったし、周りの人が笑顔になれるんだなと思いました。

鈴 木

荒浜に沢山のボランティアのみなさんが来てくださったことがわかり、とてもありがたいことだと思いました。食料や飲み物を配ったり、がれきの撤去作業など進んで活動していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。これからもう一度震災を振り返り、忘れないために様々な活動をしていこうと思いました。沢山の犠牲を出さないためにも、一人一人が真剣に考え行動していくことが一番大切だということが分かりました。

片 岡

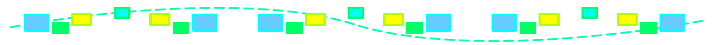
今回、見せていただいた津波の映像で「安全なところなんてないんだ」と感じました。家屋だけではなく、堤防も壊してしまう津波に対して恐怖を感じ、今後どうしていったらいいのかを考えさせられる機会を得ました。津波の起こった日から、ボランティアで私たちを助けてくださった人たちに感謝したいとも思いました。また、応援の言葉もたくさんもらって、みんな本当に優しい人だなと思いました。今回の講演で学んだ知識や経験を生かし、いかなる時も大丈夫なように備えたいと思いました。

上 野

祖父母が迎えに来て、巨理小学校に避難しました。スライドショーの中に一枚だけ巨理小学校の写真がありました。とても寒く、狭く、暗い教室にみんなが集まっていたことを思い出しました。普段の生活が一瞬で消えてしまうのは、とても苦しいことでした。もし、またこのような災害が起たら、避難所での助け合いや、がれき処理などのボランティアに積極的に参加していきたいです。ボランティアだけではなく、避難所では何ができるのかを考えて行動に移せるようにします。

阿部

## 「忘れてはいけない」



私は東日本大震災のことは一生忘れてはいけない、これからも伝えていかなければならないことなんだと、改めてそう思いました。あの日、はじめて本物の津波をこの目で見て、恐怖を感じました。幸い私の友達や親戚は無事でしたが、多くの命が失われ、何日も泣きわめくほどに怖かった出来事でした。だから、もうあの日みたいな事は起きてほしくないと思っていたし、自分からその事を忘れようとしていました。でも今日、話を聞いて「これは忘れてはいけないことなんだ」と改めて考えるようになりました。地震や津波は来てほしくないと思うことはありますが、いつかは必ず来るものです。多くの人亡くなったり、怖い思いをして心に傷を負ったりした人がたくさんいます。だからこそ、同じ事が繰り返されないように、もこれからも語り継いでいくことが大切だと思いました。

森

## 「次世代に繋ぐ」



自分は津波を直接見たことはなく、写真で見たことがあるくらいでした。しかし今回の講演で、津波の映像や怖がっている人々の声などを見たり聞いたりしたとき、改めて津波の怖さを実感しました。家や店、学校など、思い出のつまったものが、津波によって一瞬で壊されていく映像を見ると、その場にいた人たちの恐怖、悔しさ、悲しさといった感情は、想像もできないくらい大きなものだったと思います。震災から8年が経ち、震災を知らない人も増えてきました。自分たちは、多くの人たちが同じ思いをしないためにも、震災を知らない人たちに、しっかりと語り継いでいくことが使命だと思います。そのためにも、震災の経験から目を背けずに、しっかりと向き合っていかなければならないと思いました。そして、後の世代まで語り繋いでいくことができれば良いなと思いました。

木村



### 津波避難のたすとひく

- た・・・ 高いところに逃げる
- す・・・ すぐに逃げる
- と・・・ 徒歩で逃げる
- ひ・・・ 避難所をめざす
- く・・・ 訓練に参加する

資料提供：震災語り部の会「ワツタリ」

2011年6月、愛知県 成岩中学校からひまわりの種が送られた。同年8月末には、向日葵が大輪の花を咲かせた。